

---

## 【特集】震災復興の現状と課題

——陸前高田の場合——

---

### 特集にあたって

東日本大震災から3年近くが経過したが、復興の足取りは決して順調とは言えない。本特集では、岩手県陸前高田市に焦点を当て、被災地の現状と今後のあり方を理解するうえで参考となる論考を集めた。

まず、陸前高田の広田湾で最大規模のカキとワカメの養殖業を営まれている千田勝治氏に、モビリア仮設住宅（正式名称は<sup>うそざわ</sup>瀬沢第2仮設団地）の自治会長の立場から、震災後の経緯と今後の課題について寄稿していただいた。

つづいて、震災前から同市において農林水産業を基盤とする循環型社会の構築を図るべく調査を続けている研究者の論文を2編掲載する。いずれも、今後の復興の道筋を展望している。

平口嘉典「被災地域における農産物直売所を核にした地域再生の展望」によると、陸前高田市では農地の4割が津波の被害に遭ったという。農家は多くが兼業で規模も小さいため、農産物の出荷先として直売所が重要な役割を担っていた。市内の直売所は1か所を除き被災したが、いずれも営業を再開し、新たに開業したところもある。本稿はこうした直売所の経営状況を分析したあと、新たな動きとして、地域外の販売先の確保、加工事業の導入、宅配や出張販売、直売所間の連携などが見られることを指摘している。

両角和夫「地域の資源を活かした震災復興の構想」は地域資源を活かした産業創出による震災復興の構想を示したものである。農家にとっては、農地の被害だけでなく、兼業先の喪失も大きな打撃となった。地域社会の維持・存続のためには、地域が自立的に発展できるような産業を住民主体で創出することが望ましいと両角は述べ、復興に向けた地域環境ビジネスの推進を提唱する。それによって自然環境の修復と地域振興を一体的にすすめて、兼業農家の雇用の確保を目指すとしている。

（西澤 栄一郎）